

## 川西コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：令和元年 7 月 11 日（木） 19 時～20 時 15 分

○場 所：川西コミュニティセンター

○参加者：11 名

○担当者：市長 梶 正治

地域担当職員 守家（クリーン課）・山田（税務課）

多田（健康課）

### 1. 会長あいさつ

最近、県の連合自治会の仕事でいろいろな会に出席してきて思うことだが、自治会は軽んじられているような気がする。丸亀市のコミュニティ・自治会はがんばっており、市も配慮してくれている。本日は今後の川西のまちづくりについて、市長を交えての意見交換の場であるので、建設的で忌憚のない意見をお願いします。

### 2. 市長あいさつ

毎年行っているコミュニティセンター市長懇談会ですが、本日お忙しい中、参加いただきありがとうございます。市長懇談会は市民の皆さんからご意見を伺うことが主旨であるが、今日は最初に丸亀城の石垣について、私のほうからお話をさせていただきます。

### 3. 丸亀城石垣修復に向けて（市長）

丸亀城は昨年 7 月、西日本豪雨の影響で帯曲輪の一部が崩落した。地盤の弱い部分で、山崎氏時代でも手が加えられた場所であった。その後 10 月の台風で帯曲輪の角の部分も崩れ、支えのなくなった三の丸石垣も地すべり状態で崩れた。現在復旧事業を行っている。費用は最大でおよそ 35 億円かかると見込んでいるが、国からは 7 割の補助があり、令和 5（2023）年度末には終えたい。土砂崩れがこれ以上広がらないよう、降雨の時期に入るまでに応急対策工事を終えている。今後 1 年半くらいかけて、下の石を全て取り除く。その後 2 年半から 3 年位かけて下から順に昔どおりに組んでいく。なぜ崩れたかという点、土の中に溜まる水の絶対量が一定限度を超えた場合は、支えきれない状態が起きる。石垣の内側でも同じようなことが起こり、帯曲輪の石垣が外側に向いて倒れた。下側が崩れると上側は地滑り状態で滑って落ちた。

組織体制としては、崩落したその日のうちに対策本部を作り、議会でも特別委員会を作ってください全庁挙げた体制で取り組んでいる。

崩落したところを直すだけでなく、今後崩れないように、また他の部分が傷まないようにというのが課題であり、川西の防災会でも教えていただいたが、災害があった場合にはその教訓を今後を活かし、二度と被害が起きないようにしたい。

崩落以降、寄附金、募金をたくさんいただいております、3億1,150万円という今までなかったような寄附が集められ、ありがたいことである。丸亀城全体が災害に強い城になるようにしたい。

#### 4. 地域担当職員紹介

#### 5. 懸案事項について（地域担当職員 守家）

##### （1）自治会促進に対する市の位置づけについて

先般、全国自治会連合会の理事会に出席。参加都道府県の自治会加入率が示され、香川県は最低の部でした。となりの岡山県とは約30%の差がある。

本市丸亀市は、三木町を除く県内8市8町の中で宇多津町を除けば最低の率である。生活環境部のみで対応する案件で無いと思う。全庁的な取組みに発展させることが重要な課題ではないだろうか考える。

##### （市長）

岡山との差はこれまでの積み重ねの差で、すぐには無理だが、川西のような取組みを地道に続けていくことが必要である。全庁的には、例えば住宅の開発時に担当の都市計画課から開発業者を通じて自治会結成をお願いする、また市民課では転入手続き時に自治会加入の資料をお渡しするというような取組みを行っている。

担当の市民活動推進課では昨年度から自治会加入推進員を雇用し、今年度は自治会活動の活性化を支援する自治会活動応援補助金を導入した。金額は30,000円、イベントや勉強会などで活用していただきたい。

また、現在自治会活動、地域の助け合い活動を奨励するような条例について検討している。

##### （2）ごみステーションについて

自治会加入促進のため地域内を歩いて回っていて、ごみステーションの設置基準がバラバラであることに気付いた。

一世帯や2～3世帯単位でもごみ収集を行っており、自治会では10～30世帯単位でごみステーションを設置している。行政サービスに大きな不公平感をもたらしているが、これを均等化していく計画をお聞きしたい。

**(市長)**

平成30年7月から「丸亀市ごみステーション設置要綱」を作り、原則として「概ね10世帯」を丸亀市のステーション設置の目安とした。それ以前は2戸以上で、これは実質上同じ自治会の中でもあちこちに置けるもので、収集のコストや公平性の面で問題があった。

ごみステーションの設置を自治会加入促進の材料としたいと考えている。

### **(3) 地域担当職員について**

川西町における地域担当職員の活動についてはよくわかるが、他町の状況はどうか。地域と行政をつなぐ地域担当職員制度の運用をどのように展開するのか。

**(市長)**

川西地区では自治会加入促進の戸別訪問など熱心に取り組んでいる。他の地区では役員会・コミュニティまつり・防災活動などに多くの職員が参加している。ご存知のように人数を増やし、まちづくり担当の一人は管理職、一人は若手職員とした。地域の活動、また地域の人が生活の中で考えていること、困っていることを職員は勉強してもらいたいということでこのような体制にした。防災担当も以前は避難所ができたら行くというものであったが、防災担当の役割を果たすためにも地域の防災計画作りまで関わられるようにしたい。

今後も地域にとっても職員にとっても有用な制度となるように展開したい。

## **4. 自由討議**

### **(1) ごみステーションについて**

**(会長)**

2軒、3軒でごみステーションを設置しているところに10軒くらいでできないかと言うと、あなたに言われる筋合いはないと言われる。主となってやるのは行政なのか、我々コミュニティなのかというのも整理が必要ではないか。

**(地域担当職員 守家)**

会長と一緒に自治会加入促進の戸別訪問している中でもそのような意見を聞いている。ごみステーションを設置するには自治会に加入しなければいけないというイメージが続いている。これからはコミュニティの了解を得てごみステーションを設置することとしているので、地元コミュニティの意見を踏まえて考えていかなければならな

いと考えている。

**(会 長)**

今はごみ袋をそのまま置いたり、ネットを被せているだけという所も多い。10軒を条件とする代わりに、蓋のついたステーションを設置するというのであれば話はまとまりやすいと思う。財源が必要なのは理解している。社会福祉協議会では赤い羽根共同募金は自治会加入につながるのであれば多少使えるようにしようと審査委員会でも話があった。少ない軒数のところを10軒以上にして、自治会に加入するのであればごみステーション整備に共同募金を使えるように検討している。

**(市 長)**

そうしていただけると市も助かる。地域のコミュニティの方に負担がかかっているという現状からも条例を制定することが必要になってくるのではないかと。条例という法的な裏づけがあればコミュニティも話がしやすくなる。

ごみの問題は自治会の大きな役割だった。防災と並んで自治会加入促進の大きな理由付けになる。

**(男性 60代)**

家がかたまっていけばいいが、離れているところもある。ごみステーションまでの距離が遠ければ不便になる。

**(地域担当職員 守家)**

昔、農地の中に家がぼつんとある場合はそれも考慮しなければならなかった。川西も住宅が増えてきている。大きな自治会ではごみステーションをまとめることはたいへんなので、ごみについては自治会の枠の中だけで考えなくてもいいのではないかと思う。概ね10世帯以上ということで可能ではないかと考えている。

**(市 長)**

私の自治会は130世帯ある。会費は年3,000円。ごみステーションは1箇所だがみな納得している。きちんとしたごみステーションを昔80世帯で作り、後から加入した人からは年会費を4,000円にするだけで負担金は取っていない。

できるだけ自治会に入ってもらい、うまく使えるような方向になればいいと思う。

**(男性 60代)**

自治会に新しく加入する場合に30万円の負担金が必要になるので、20年位前にできた4軒の団地は自治会に入らず、自分たちでステーションを作った。最近新しく1軒、家ができたが自治会加入のハードルが高くて入らなかったが、ゴミだけ捨てさせてほしいということで話しをした。当番をすることで自治会です承した。

**(市長)**

自治会に加入するハードルは下げてもらいたい。

**(男性 60代)**

私の団地では自治会に加入していない人が2人いる。当番もしていないのにごみを捨てていることについて自治会内でも意見される。その人からは税金を払っているのだから市がごみを取るのは当たり前だと言われる。

**(男性 60代)**

私の自治会では未加入者で当番をしなくてもごみを置かせてあげている。特に意見も出ていない。最近4、5軒かたまったのでコミュニティ自治会に入って会長がごみステーションを置いてあげたので非常に喜ばれている。

**(地域担当職員 守家)**

自治会加入促進の訪問をしても、ごみ当番や負担金などの自治会加入の際のハードルが問題になっていると感じる。ごみ収集の効率化のためにも数を集約化することも必要。コミュニティ自治会と旧の自治会が連携してごみステーションの位置を決めていけばうまくいくのではないかな。

**(男性 60代)**

それはなかなか難しい。

**(女性 60代)**

高齢者訪問に行くとコミュニティ自治会のシールを貼っている。その人から、市が外灯をつけてくれた、隣の自治会のごみステーションに気を使いながらごみを捨てていたが会長がステーションを作ってくれたおかげでごみが捨てられるようになったと喜んでいて。このようなことが広まればいいと思う。

**(男性 60代)**

市長の条例化の話は心強い。訪問活動の中でコミュニティ自治会は市全体の取り組みかと聞かれるが、現時点では川西だけだと説明している。条例化はぜひお願いしたい。

**(市長)**

市の他の地域は川西のように進んでいないので、一地域だけでは孤立してしまう。加入を義務付けるのは難しいが、条例で地域での助け合いが必要だということで自治会加入を呼びかけたい。現在研究中である。

**(男性 60代)**

自治会はまちづくりの根幹であるのでぜひお願いしたい。

## (2) コミュニティセンターについて

### (会 長)

川西コミュニティセンターが一番古い。市の財政上のことは理解しているが、10年以内にはお願いしたい。川西は防災でがんばっているので、防災の資料館のようなものも入れていただきたい。隣のドラッグストアは建て替えということになってしまったので、ぜひどこかに土地を探してもらって地域の拠点作りをお願いしたい。

### (市 長)

コミュニティセンターは耐震性など考慮しながら順番にやらせてもらっている。飯野、垂水、本島の計画があり、おそらくその次ということになる。市としても寿命がきていないのに建て替えるのは難しいと思っている。面積は市内のセンターの中でのバランスは考えないといけないが、土地は確保できるときにしておくべきと考えている。地域の中でも議論していただきたい。

## (3) 避難所について

### (男性 60代)

災害時、避難所のプライバシーについては検討が必要だと思っている。川西でもパーティションなどで区切っているが、それだけでは不十分な用である。外国の例をテレビで見たが、行政の方向性についてお聞きしたい。

### (市 長)

スフィア基準という避難所の国際基準がある。これはもうホテル並みである。福祉避難所や女性など配慮が必要な人に対応できるような避難所作りを進めていく必要があると考えている。

## (4) コミュニティセンターのトイレについて

### (男性 60代)

4月から話をしているのだが、今のコミュニティセンターのトイレは男女の仕切りの壁の上があいていて、配慮に欠けている。

### (市 長)

これはさっそく調査してなんとか対応する。

## **(5) 野犬対策について**

### **(会長)**

県の連合自治会の中で知事との意見交換会でも話したが、野犬対策をお願いしたい。土器川河川敷に非常に多い。県では動物愛護センターを作ったが、中讃地域、できれば土器川の上流あたりに造ってほしいと知事に要望した。なんとか保護して里親探しに結び付けられるような施設を県と市が協力してほしい。

### **(市長)**

最近できた県の動物愛護センターだけでは収容できる動物の絶対量が足りていない。民間で運営できるような施設を県に要望したい。野犬対策ではまずエサをやらないようにしなければいけないと思うので、その啓発も含めて野犬対策は行いたい。

### **(男性 60代)**

悪いのは犬を捨てる人間である。民間ボランティアの里親も譲渡の条件は厳しいと聞いている。飼い主が責任を持つことが重要だと思う。

## 川西コミュニティセンター市長懇談会の質問・意見等に対する回答

### ● コミュニティセンターのトイレについて

今のコミュニティセンターのトイレは男女の仕切りの壁の上があいていて、配慮に欠けている。

(回答：市民活動推進課)

他のコミュニティセンターと比較しても改修は必要と考えておりますので、次年度の予算計上に向けて検討してまいります。